

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

3年 生活デザイン科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

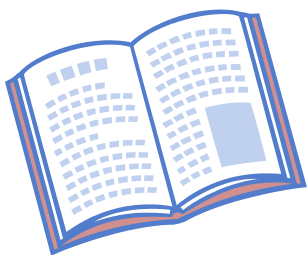
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

生活デザイン科

◎科の目標

- ・家庭の各分野に関する専門性の基礎・基本の知識と技術を学び、生活産業の社会的な意義や役割を理解し、社会の発展を図る創造的な能力と態度を身につけた人材の育成を目指します。
- ・「フードデザイン」「服飾文化」「子どもの発達と保育」「生活産業情報」「課題研究」「さぬきの生活伝承」「生活産業基礎」等を学習します。
- ・2年次よりコースを選択し、「健康栄養コース」「服飾デザインコース」「保育子ども文化コース」の3コースに分かれて学習します。

◎資格取得、進路

- ・家庭科技術検定（食物・被服・保育）、秘書技能検定、ビジネス文書実務検定
- ・大学、短大、専門学校への進学、各種企業への就職

①健康栄養コース

◎「調理」「フードデザイン」「栄養」「食品」など食物に関する専門的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
1年	国語総合				現代社会		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ			家庭総合				生活産業情報			服飾文化		フードデザイン		L	H	R
2年	現代文A		日本史A		数学Ⅰ		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		生活産業基礎		子どもの発達と保育		服飾文化		フードデザイン			調理		さぬきの生活伝承		L	H	R	
3年	国語表現		世界史A		政治経済		数学A		化学基礎			体育			コミュニケーション英語Ⅱ		課題研究			調理			栄養		食品		食文化 生活教養 和		L	H	R	

②服飾デザインコース

◎「ファッションデザイン」「ファッション造形」「服飾手芸」など被服に関する専門的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1年	国語総合				現代社会		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ				家庭総合			生活産業情報		服飾文化		フードデザイン		L	H	R
2年	現代文A	日本史A		数学Ⅰ		体育		保健	芸術Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		生活産業基礎	子どもの発達と保育			ファッション造形基礎		ファッションデザイン		フードデザイン				さぬきの生活伝承		L	H	R	
3年	国語表現	世界史A		政治経済		数学A		化学基礎 ----- 生物基礎			体育			コミュニケーション英語Ⅱ		課題研究				ファッション造形			服飾手芸		食文化 ----- 生活教養 ----- 和		L	H	R		

③保育子ども文化コース

◎「子ども文化」「子どもの発達と保育」「服飾文化」「フードデザイン」など保育に関する基礎的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
1年	国語総合				現代社会		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		家庭総合				生活産業情報		服飾文化		フードデザイン			L	H	R	
2年	現代文A		日本史A		数学Ⅰ		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		生活産業基礎		子どもの発達と保育			子ども文化		服飾文化		フードデザイン		さぬきの生活伝承			L	H	R
3年	国語表現		世界史A		政治経済		数学A		化学基礎 ----- 生物基礎		体育			コミュニケーション英語Ⅱ		課題研究			子ども文化			フードデザイン		食文化 生活教養 和		器楽演奏			L	H	R	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	国語表現	2	3年	生活デザイン科	全員

学習目標	国語を適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。
授業計画	1学期 1, 書いて伝える 2, 小論文・レポート入門 3, 自己PRと面接 2学期 4, メディアを駆使する 5, 声とコミュニケーション 3学期 6, 会話・議論・発表
学習方法と アドバイス	・授業に積極的に参加し、自分の考えを進んで発表する。 ・的確な表現をするために、辞書を活用する。 ・ノートの取り方を工夫して、学習効果を高める。 ・副教材を用いて、漢字・語句・語法の演習問題を解く。 ・様々な場に表現の機会を持つようにする。
評価の観点と 方法	「国語表現」では以下の5つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】積極的に授業に参加し、不明な個所や興味のある内容を進んで調べたり、積極的な読書を通して自分の意見を表現できているか。 【話す・聞く能力】自分の考えをまとめ、相手に正確に伝えたり、相手の話を的確に聞き取ることができているか。 【書く能力】自分の考えを適切な表現を用いて表現できているか。 【読む能力】文章を正確に読みとることができているか。 【知識・理解】漢字・語句や文法等を理解し、適切に使用できているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト、出席状況 等により総合的に評価します。
使用教材	教科書 「国語表現 改訂版」大修館書店 副教材 「国語表現 基礎練習ノート」大修館書店 「国語常識の総演習」京都書房

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	世界史A	2	3年	生活デザイン科	全員

学習目標	古代文明の学習をきっかけにして世界史に興味・関心を持ち、大航海時代を契機に世界が一体化していくことを理解する。近現代史では、人権や自由が尊重される市民社会がいかにして形成されたかを学ぶとともに、欧米列強による植民地支配の実態と影響について考察する。また、二つの世界大戦の学習を通して、過去の失敗から学んだ教訓や財産を未来に生かすことで、歴史教育の意義を理解する。そして、異文化理解の重要性を認識し、主体的に世界平和に寄与する態度を養う。
授業計画	1学期 前近代の諸文明（東アジア、西アジア、ヨーロッパの文明など） 大航海時代の始まり アジア・アメリカへと進出するヨーロッパ 2学期 ヨーロッパとアメリカの諸革命 自由主義・ナショナリズムの進展 世界を分割する帝国主義 第一次大戦がもたらしたもの 3学期 経済危機から第二次世界大戦へ 冷たい戦争の時代 地球社会への歩み
学習方法と アドバイス	授業では、教科書・ノート・図説を活用して積極的に活動し、分からないところを質問し、歴史上の事件や人物について自分の考えを発表する。 復習やテスト前の学習に役立つように、丁寧なノート作りを心がける。 各自でテーマを設定し、図書館やタブレット端末等で調べたことをまとめ発表する。 ノートやプリントなどの提出物を、期限を守って提出する。 新聞やテレビのニュースに常に注意し、授業で学んだ事柄との関連を考える。
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。 【思考・判断・表現】世界史の事象から課題を見だし、その歴史的意義を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現しているか。 【資料活用の技能】世界史に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用しているか。 【知識・理解】世界が形成される過程や歴史事象を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みの姿勢、ノートやレポートの提出状況などで総合的に評価する。
使用教材	教科書 「明解 世界史A」 帝国書院 副読本 「ニューステージ 世界史詳覧」 浜島書店

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
公民	政治・経済	2	3年	生活デザイン科	選択

学習目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
授業計画	1学期 第1編 現代の政治 民主政治の基本原則と日本国憲法／現代の国際政治と日本①～③ 第1編 現代の政治 現代の国際政治と日本④～⑥ 2学期 第2編 現代の経済 現代経済のしくみと特質 第2編 現代の経済 国民経済と国際経済 3学期 第3編 現代社会の諸問題 現代日本の政治や経済の諸課題／国際社会の政治や経済の諸課題				
学習方法とアドバイス	・ 予習として、教科書をあらかじめ読んでから、その日の授業に臨むことを習慣づける。 ・ 授業を最大限大切に、授業中は集中して講義に耳を傾ける。また、黒板に書かれたことを中心に、丁寧なノート作りに励む。また、提出物の指示があった場合派、期限を守って必ず提出する。 ・ 3学期の課題追求学習は、自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめることになるので、1学期・2学期の授業中に学ぶことから、自分が興味・関心をもつ項目を見つけておかなければならない。 ・ 考査前には、教科書を丁寧に繰り返し読み返しながら、ノートにも目を通しておく。 ・ 常日ごろから、分からないことや疑問に思ったことについて、積極的に質問したり自ら調べたりして、主体的に考察する態度を身に付けていく。 ・ 毎日、新聞を読むことを習慣化し、日常生活のなかで、現代における政治・経済・国際関係などについての関心を持つ態度を育てていく。				
評価の観点と方法	「政治・経済」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、民主的・平和的なよりよい社会の実現にむけて参加、協力する態度を身につけ人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしたか。 【思考・判断・表現】 現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的現象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。 【資料活用の技能】 現代社会の基本的問題や人間に関わる事項に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し有用な情報を適切に選択して効果的に活用しているか。 【知識・理解】 現代の諸問題と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートなどの提出物などを総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書：『高等学校 改訂版 政治・経済』 第一学習社 副読本：『最新 政治・経済資料集 2021』 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教 科 名	科 目	単位数	対象学年	対 象 生 徒	区 分
数学	数学A	2	3 年	生活デザイン科	全員

学習目標	場合の数と確率、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を確立するとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。				
授業計画	1 学期	1 章	場合の数と確率 1 節 集合と場合の数 2 節 確率とその基本性質 3 節 いろいろな確率 3 章 図形の性質 1 節 三角形と比 2 節 円の性質 3 節 作図 4 節 空間図形		
学習方法と アドバイス	・ 予習	教科書を読み、疑問点をチェックする。			
	・ 授業	積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして、早めに解決する。			
	・ 復習	教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。			
評価の観点と 方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 社会生活において数学が果たしている役割に興味・関心を示し、事象を数学的に考察しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 さまざまな事象を数学的にとらえ、それらを論理的に追究し、解明しようとしているか。 【数学的な技能】 適切な記号や用語、グラフや図を用いて、論理が展開できているかどうか。 【知識・理解】 基本的な記号・用語・定理などを理解し、それらを使って推論が論理的に展開できるかどうか。 ○評価方法 ・ 定期考査、小テストなどで 4 つの評価観点を評価する。 ・ ノート提出、出席状況、授業への取り組など 4 つの評価観点を評価する。				
使用教材	教科書	「新編 数学 A」	東京書籍		
	副教材	ニュージャスト 数学 A	東京書籍		

考 査		目 標 ・ ポイント	
1 学期	中間		
	期末		
2 学期	中間		
	期末		
学年末			

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	化学基礎	3	3年	生活デザイン	選択

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
授業計画	1学期 序章 化学と人間生活 第1編 物質の構成と化学結合 ・第1章 物質の構成 ・第2章 物質の構成粒子 2学期 第1編 物質の構成と化学結合 ・第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 ・第1章 物質と化学反応式 ・第2章 酸と塩基の反応 3学期 第2編 物質の変化 ・第3章 酸化還元反応
学習方法とアドバイス	・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・ 授業を大切に積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。 ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。 ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。
評価の観点と方法	「化学基礎」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】自然の事物・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 「改訂版 新編 化学基礎」 数研出版 問題集 「改訂版 新編化学基礎 準拠ノート」 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	生物基礎	3	3年	生活デザイン科	選択

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心をもち、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を習得する。				
授業計画	1学期 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き 2学期 第3章 体内環境と恒常性 3学期 第4章 植生の多様性と生態系				
学習方法とアドバイス	・予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう丁寧にノートを作る。 ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。				
評価の観点と方法	「生物基礎」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】生物や生命現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、生物や生命現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 新生物基礎」 第一学習社 問題集 「プロGRESS 生物基礎」 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教 科 名	科 目	単位数	対象学年	対 象 生 徒	区 分
保健体育	体 育	3	3 年	生活デザイン科	全員

学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
授業計画	4月 体づくり運動 5月～7月 体づくり運動 Ⅰ期選択 器械運動・ダンス・陸上・ バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 9月～11月 体育理論 Ⅱ期選択 器械運動・ダンス・陸上・ バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 体づくり運動 12月～3月 体づくり運動 Ⅲ期選択 器械運動・ダンス・陸上・ バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道
学習方法と アドバイス	選択種目については、教師の指導・助言を受けながら、各自・各グループで以下のような要領で自主的に学習を進める。 ・自分やグループの状態に適した目標の設定をおこなう。 ・その目標を達成するために、具体的な運動の課題を把握する。 ・その運動の課題を解決するために、合理的な練習計画を作成する。 ・計画にもとづいて実行した結果を評価し、つぎの課題や目標の修正に生かす。
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】・・・種目の特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組んでいるか。個々の役割を自覚しその責任を果たし互いに協力して種目に取り組んでいるか。活動場所などの安全を確かめ、健康・安全に留意して種目に取り組んでいるか。 【思考・判断】・・・種目の問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 【運動の技能】・・・個人技能、集団技能など各技能のポイントをどのように習得しているか。 【知識・理解】・・・種目の特性や課題・合理的な練習の仕方を理解し、実践に生かそうとしているか。種目のルールや競技・審判の方法を十分理解するとともに、学習の中で効果的に活用することができるか。
使用教材	教科書 最新高等保健体育 大修館書店 副教材 ステップアップ高校スポーツ 大修館書店

	種目（課題設定）	自己評価
1 学期		
2 学期		
3 学期		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	2	3年	生活デザイン科	全員

学習目標	① 英語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 ③ 英語を通して、多様なものの見方や考え方を理解し、自国のこと、諸外国のことを知り、広い視野から国際理解を深める。
授業計画	1学期 Lesson 6 Becoming the Best (世界のトッププレイヤーになるには?/how to do, It seems that~) Lesson 7 The Galapagos Islands (今、ガラパゴス諸島に起こっていることは?/現在完了進行形・形式目的語 it) 2学期 Lesson 8 Shodo, Old and New (伝統文化を新しいスタイルで/部分否定・can be done) Lesson 9 Water World (水族館、今と昔/関係代名詞の非制限用法・have been done) 3学期 Lesson 10 A Long Friendship (日本とトルコの友好関係/過去完了形・強調構文) *実際の授業は種々の都合によりこの通り行われないことがある。
学習方法と アドバイス	① 予習として教科書の本文を読み、分からない語句を辞書で調べておく。 ② 言語活動を通して内容の理解を深め、積極的に自分の考えや意見を発表する。 ③ 本文の意味を理解した後に音読を行い、繰り返し英文を書いたり、声に出して読んだりする。 ④ 新出の文法事項や語句について、参考書の関連箇所ですらに理解を深めるようにする。
評価の観点と 方法	コミュニケーション英語Ⅱでは次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、授業に参加することができる。 【外国語表現の能力】 情報や考えなどを、表現の方法を工夫しながら英語で話したり書いたりすることができる。 【外国語理解の能力】 教科書を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】 基本的な英文法や単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 VISTA English Communication II New Edition 三省堂 副教材 VISTA English Communication II Workbook New Edition 三省堂 デュアルスコープ総合英語 5訂版 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	課題研究	3	3年	生活デザイン科	全員

学習目標	課題解決を図る学習活動を通して、家庭に関する各科目の学習で身に付けた専門的な知識と技術の定着を図るとともに、実際の場面に応用発展できる知識と技術を身につける。
授業計画	1学期 1 講座別オリエンテーション 2 各講座のテーマにそって各自のテーマと年間学習計画の作成 3 各自調査研究及び作品製作等の開始 各種検定受検 2学期 1 各自調査研究及び作品製作等の継続 各種検定受検 2 中間まとめ発表（南高祭、高文連生活デザイン展への出展） 3学期 1 各自調査研究及び作品製作等の成果のまとめ 2 研究成果集録製本、配布 3 研究成果発表会
学習方法とアドバイス	・①調査、研究、実験、②作品製作、③検定受検、資格取得等学習方法は各自のテーマにより異なる。 ・生徒の興味・関心、進路に応じて開設されている講座の中で、個人やグループで適切な課題を設定し、学習内容を考える。 ・課題研究の成果を成果集録にまとめ、校内発表会で発表する。
評価の観点と方法	以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 研究内容に興味を持ち、積極的に行動ができているか。 自らの家庭生活に関する諸問題に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 実験・実習などから得られる結果を科学的に考察できるか。 【技能】 生活をするのに必要な基礎・基本的な技術を身につけ実生活に応用できるか。 講義や実習から得られた自分の考えをまとめ、適切に活用できているか。 【知識・理解】 問題解決や資格取得のための基礎・基本的な知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、授業への取り組みの姿勢、作品、研究成果のまとめ取得資格などから総合的に評価する。
使用教材	各講座、各自の研究テーマに適する教材を選ぶ。

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	子ども文化	4	3年	生活デザイン科 (保育子ども文化コース)	全員

学習目標	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得するとともに、子ども文化の充実を図る能力と態度を身につける。				
授業計画	1学期	子どもと文学 子ども文化を支える活動 乳幼児の遊びの観察と保育実習	作品作りと発表 乳幼児との交流体験		
	2学期	子どもと表現活動 子どもと遊び 乳幼児の遊びの観察と保育実習	作品作りと発表 乳幼児との交流体験		
	3学期	現代の子どもの生活と文化	作品作りと発表		
学習方法と アドバイス	・教科書やプリントを用いて、講義を受ける。 ・絵本の読み聞かせや歌の練習、折り紙や劇などの児童文化活動も取り入れる。 ・講義で学習した知識や技術を生かして、実際に乳幼児交流会や保育所実習を行う。 ・子ども文化で学習したことをもとに、保育技術検定を受験する。				
評価の観点と 方法	「子ども文化」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味を持ち、自主的に活動できているか。 意欲的に交流体験に参加し、積極的に行動できているか。 【思考・判断・表現】 問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 実習などから得られる結果を科学的に考察し、次の実習につなげることができるか。 講義や実習から得られた自分の考えをまとめ、適切に表現できているか。 【技能】 子どもと生活をするのに必要な基礎・基本的な技術を身につけ、実際の活動に応用できるか。 【知識・理解】 子どもとの生活に関する基礎・基本的な知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、交流活動への取り組みの姿勢、実技テスト、作品等の提出物などから総合的に評価する。				
使用教材	教科書「子ども文化」教育図書出版 副教材「保育技術検定 過去問題集」 全国高等学校家庭科教育振興会 学習プリント 等				

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	ファッション造形	6	3年	生活デザイン科デザイン (服飾デザインコース)	全員

学習目標	被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴などに関する知識と技術を習得させ、被服を創造的に製作する能力と態度を身につける。
授業計画	1学期 1 自由作品製作 デザイン・型紙の作成・裁断・縫製 2学期 2 自由作品製作 縫製・発表 3 スーツ製作（裏付きジャケット・スカート） 3学期 4 スーツ製作 5 自由作品製作
学習方法と アドバイス	・ 作品については期限内に完成させることを目標に、毎時間計画を立てて能率良く実習を行う。 ・ 欠席等で作業が遅れた場合は、放課後等を利用して次の授業までに進めておく。 ・ 被服製作技術検定1級および各種の検定の取得をめざす。 ・ 検定については筆記・実技ともに復習をしっかりとし、落ち着いて取り組む。
評価の観点と 方法	「被服製作」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 積極的に実習に参加し、計画的に作業を進めているか。 技術の向上を目指して、作品製作に意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 被服の構成・作業工程を科学的に考察でき、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫しながら作業を進められているか。 【技能】 被服製作に必要な技術を身につけ、活用できるか。 【知識・理解】 被服に関する専門的な知識を身につけ、理解できているか。 以上の観点から、定期考査（年間5回）、授業への取り組みの姿勢、作品等で総合的に評価する。
使用教材	授業プリント等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	服飾手芸	2	3年	生活デザイン科 (服飾デザインコース)	全員

学習目標	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得する。 手芸作品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を身につける。
授業計画	1学期 1 手芸の種類と変遷 2 服飾材料としての各種手芸の技法 3 手芸品の製作 ・フランス刺しゅうの基礎 ・フランス刺しゅうの応用作品製作 2学期 4 その他の手芸 ・パッチワークの基礎 ・パッチワークの応用作品制作 ・編み物の基礎 3学期 5 編物の応用作品製作
学習方法と アドバイス	・作品は製作計画を立て学習能率を良くていねいに仕上げて、期限を守って提出する。 ・努めて手芸作品に実際に見たり触れたりする機会を持ち、創造性のある作品づくりに生かす。 ・地域の伝統文化や歴史等の中の手芸品について調べる。
評価の観点と 方法	「服飾手芸」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 手芸に関する知識や技術に関心を持ち、積極的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 学習したことを、ファッションデザインに活用し生活の場に生かそうとしているか。 【技能】 授業で学んだ知識や技術を身につけ、個性の表現に活用できているか。 【知識・理解】 手芸に関する基礎的な知識・技術を身につけ、理解しているか。 以上の観点から ・年5回の定期考査実技の結果、毎時間の学習活動、ファイルや課題の提出状況等 ・作品の創造性、技術等 で総合的に評価する。
使用教材	・授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	フードデザイン	2	3年	生活デザイン科 (保育子ども文化コース)	全員

学習目標	栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネート・食育などに関する知識と技術を習得し、食事を総合的にデザインする能力と実践的な態度を身に付ける。				
授業計画	1学期	栄養素のはたらきと食事計画 食育 調理の基本		フードデザイン実習	
	2学期	食品の特徴・表示・安全 料理様式 食育		フードデザイン実習	
	3学期	献立作成 食育		フードデザイン実習	
学習方法と アドバイス	- 教科書、補助教材を用いて講義を受けるとともに、調べ学習も行う。 - 講義で学習した知識を生かして、年齢に適した献立を作成し、調理実習する。 - 調理実習ノートに献立の作り方、調理の要点などを記入し、レポートとして提出する。				
評価の観点と 方法	「フードデザイン」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 食生活に関する諸問題、特に子どもの食生活の問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 食生活に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。また、その成果を的確に表現できたか。 【技能】 調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 食事に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、食品の扱い方等の実習態度、提出物等を総合的に評価する。また、授業や実習への参加態度や感想から、何を学んだかを評価する。				
使用教材	教科書「フードデザイン」 実教出版 副教材「オールガイド食品成分表」実教出版 「家庭科問題集」全国高等学校家庭科教育振興会 学習プリント 等				

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	食文化	2	3年	生活デザイン科	選択

学習目標	食文化の成り立ち、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得する。また、伝承された食文化をよりよく発展・創造する態度を養うとともに、国際化に対応して、食と食文化の多様性を理解し、異なる食文化に対して寛容で受容的な姿勢を身につける。
授業計画	1学期 世界の食文化について、その特性を学ぶと共に調理実習を行う 2学期 日本各地の食文化について、その特性を学ぶと共に調理実習を行う 3学期 伝承されてきた食文化を発展させ、各自の工夫を活かした料理をつくることができるようにする。
学習方法とアドバイス	・食文化の成り立ちは気候風土、宗教、風俗・習慣と関係が深いので、身近な生活と食文化のかかわりについて意識しながら学習に取り組む。 ・世界の食文化については、これまでになじみのない食品や調理法に接することもあるが、多様な食文化を理解しようとする姿勢で取り組み、食に関して視野を広げるように心がける。 ・調理実習では、世界各地の様々な調理法を経験し、その調理技術を身につけると共に、各国の料理を基礎に各自の工夫を生かした料理をつくることができるようにする。 ・提出物やレポートには計画的に取り組む、期限内に必ず提出する。
評価の観点と方法	「食文化」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味を持って学習に臨み、積極的に行動できているか。 世界や日本各地の食文化に関心を持ち、学習に意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 食文化の生まれた背景など先人の知恵や工夫について考えているか。 残していくべき食文化の大切さに気づけているか。 学習成果を分かりやすくまとめ、発表につなげることができたか。 【技能】 世界や日本各地の調理法を身につけることができたか。 世界や日本各地の伝統的な料理様式の調理ができるとともに、自分の工夫を活かした料理をつくることができたか。 【知識・理解】 世界や日本各地の食文化に関する知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、授業への取り組みの姿勢、実習態度や課題等の提出状況、作品の技術などを総合的に評価する。
使用教材	副教材「食文化概論」公益社団法人 全国調理師養成施設協会 「オールガイド食品成分表」実教出版 学習プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	調理	4	3年	生活デザイン科 (健康栄養コース)	全員

学習目標	調理の特徴・食品の調理上の性質が分かる。調理の種類と献立に関する知識と技術を身に付け、創造的に調理する能力と態度を身に付けると共に、食生活の充実向上を図る。		
授業計画	— 1学期 — 調理の基本 調理法の特徴 食品の調理上の性質 調理の種類と献立 日本料理 西洋料理 食事作法 調理実習・実験	— 2学期 — 調理の種類と献立 日本料理 西洋料理 中国料理 食事作法 調理実習・実験	— 3学期 — 調理の種類と献立 日本料理 西洋料理 中国料理 食品の衛生と安全 調理実習・実験
学習方法と アドバイス	・調理実習時には事前に調理ノートを書き、手順等を把握しておく。 ・調理に関する基本・種類等の知識を学習、それに関連した実習をする。 ・調理実習・実験により、食品の調理上の性質に関する理解を深める。 ・外部講師による講習により、高度な技術の習得に努める。 ・食物調理技術検定1級および各種コンテスト等に挑戦する。		
評価の観点と 方法	「調理」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味を持ち、積極的に行動できているか。 自らの食生活に関する諸問題に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 実験・実習などから得られる結果を科学的に考察できるか。 【技能】 生活をするのに必要な基礎的・基本的な技術を身につけ実生活に応用できるか。 講義や実習から得られた自分の考えをまとめ、適切に活用できているか。 【知識・理解】 食生活に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、取り組みの姿勢、課題等の提出物など総合的に評価する。		
使用教材	教科書「フードデザイン」実教出版 副教材「調理1」「調理2」実教出版 副教材「オールガイド 食品成分表」実教出版 副教材「家庭科問題集 食物編」全国高等学校家庭科教育振興会 学習プリント 等		

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	栄養	2	3年	生活デザイン科 (健康栄養コース)	全員

学習目標	栄養に関する幅広い知識・技術を習得し、実践的な態度を身に付ける。 ライフステージ・ライフサイクルと栄養・病態別栄養などに関する知識・技術を習得する。				
授業計画	1学期 栄養とは 栄養素の機能と代謝 ライフステージ・ライフサイクルと栄養 献立作成・調理実習 2学期 ライフステージ・ライフサイクルと栄養 消化と吸収 エネルギー代謝と食事摂取基準 栄養状態の評価 病態栄養 栄養と調理 献立作成・調理実習 3学期 食生活の展望と健康増進 調理実習				
学習方法と アドバイス	・副教材・プリントを用いて、講義を受けるとともに、調べ学習も行う。 ・講義で学ぶ知識を生活に生かせるように、自分自身の生活も振り返りながら学習する。 ・講義で学習した知識を生かして、栄養指導ができるようにする。 ・年齢・病態に適した献立を作成し、調理実習する。 ・調理実習ノートに作り方、調理の要点などを記入し提出する。				
評価の観点と 方法	「栄養」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 栄養に関する諸問題の解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 【技能】 栄養に関する基礎・基本的な技術を身につけるとともに、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 栄養に関する基礎・基本的な知識を身につけ、栄養素の機能を理解しているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みの姿勢、ノートや課題等の提出物などから総合的に評価する。				
使用教材	副教材「栄養」実教出版 副教材「オールガイド食品成分表」実教出版 学習プリント 等				

考 査	取り組みの状況・自己評価		反省等	
1学期			学習の意欲・取り組み	A・B・C
			学習内容の理解	A・B・C
2学期			学習の意欲・取り組み	A・B・C
			学習内容の理解	A・B・C
3学期			学習の意欲・取り組み	A・B・C
			学習内容の理解	A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	食品	2	3年	生活デザイン科 (健康栄養コース)	全員

学習目標	食品の分類とその特徴、加工と貯蔵などに関する知識と技術を習得し、食品を適切に活用して、食生活の充実向上を図る能力と態度を身につける				
授業計画	— 1学期 — 食品学概論 食品の種類と分類 食品の成分と性質 食品の加工と貯蔵 食品実験・実習 — 2学期 — 食品の特徴と性質 植物性食品とその加工 動物性食品とその加工 油脂・嗜好品 調味料・香辛料 その他 食品実験・実習 — 3学期 — 食品の特徴と性質 食品の表示 食品実験・実習				
学習方法と アドバイス	- 身近な食品に関心を持ち、その特性を意識して調理に取り組むようにする。 - 食品の特徴、機能、食品表示について理解し、食品を適切に選択し活用できるようにする。 - 食品の調理上の性質や加工と貯蔵について、実験・実習を交えながら学習する。 - 食品の特性を生かした料理を考え、コンクール等に応募する。				
評価の観点と方法	「食品」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実験・実習内容に興味を持ち、積極的に行動ができているか。 自らの食生活に関する諸問題に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 実験・実習から得られる結果を科学的に考察できるか。 授業で学んだ知識や技術を自らの食生活の充実・向上に活用できるか。 【技能】 授業で学んだ知識や技術、調べ学習で得た知識などをまとめ、実生活に応用できるか。 【知識・理解】 食品の分類とその特徴、加工と貯蔵などに関する知識を身に付け、理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、取り組みの姿勢、レポート等から総合的に評価する。				
使用教材	副教材「食品と栄養の特性」公益社団法人 全国調理師養成施設協会 副教材「オールガイド 食品成分表」改訂版 実教出版 学習プリント 等				

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	生活教養	2	3年	生活デザイン科	選択

学習目標	社会人として必要な知識や生活の一般教養について広く学習し、秘書検定2級・準1級の合格を目指す。実習を通して技術を習得し、礼儀作法や社会人としての心構えを身につける。
授業計画	1学期 人間形成と教養 社会人になるにあたって マナー・接遇の知識 総合問題演習 秘書検定受検 2学期 事務処理の仕方 応対・応接の実習 総合問題演習および実技演習 秘書検定受検 3学期 社会生活の作法
学習方法と アドバイス	・ロールプレイング、演習を行い、マナー・接遇の知識・技術を習得する。 ・応対はグループ毎の実習を行い、お互いに評価しあい、作法を身につける。 ・外部講師による講習により、マナー・接遇の技術を身につける。 ・秘書技能検定2級の取得を目指し、準1級にチャレンジする。
評価の観点と 方法	「生活教養」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味を持ち、積極的行動しているか。 生活に必要な教養として礼儀作法に関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 社会生活を円滑に営むため、自らの思考を深め、学習した知識と技術を活用し、適切に判断できるか。 【技能】 礼儀作法などによる技術を身につけ、その成果を的確に活用できるか。 【知識・理解】 社会人として、円滑な人間関係を築くため、礼儀作法などの必要性和意義を理解しているか。 以上の観点から、定期考査（年間5回）、取り組みの姿勢、提出物などで総合的に評価する。
使用教材	・副読本 「秘書検定実問題集」 早稲田教育出版 ・「秘書検定 クイックマスター2級」 実務技能検定協会編 ・学習プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
家庭	和	2	3年	生活デザイン科	選択

学習目標	日本の伝統文化について学ぶことを通し、生活文化を伝承し、現代生活に取り入れ活用する能力や態度を育てる。
授業計画	1学期 日本の伝統的な手工芸品について調べ、製作する。 2学期 和服の着付けや、和服のマナーについて学習する。 3学期 日本茶の歴史、種類、入れ方を学習する。 年間を通して、日本の生活文化について調べ学習を行う。
学習方法と アドバイス	・調べ学習では、書籍等で日本伝統の生活文化について調べると共に、日本の生活文化について関心を持ち、自分も文化の伝承者となる自覚を持ちながら学習に取り組む。 ・手工芸品の製作については、技術を身につけると共に、その手工芸品が作られるようになった背景についても考える。 ・作品やレポートには計画的に取り組む、期限内に必ず提出する。
評価の観点と 方法	「和」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味を持って臨み、積極的に行動できているか。 日本伝統の生活文化に関心を持ち、学習に意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 生活文化の生まれた背景など先人の知恵や工夫について考えているか。 残していくべき生活文化の大切さに気づけているか。 【技能】 女物長着の着付け、また名古屋帯の結び方を身につけることができたか。 伝統的な工芸品の製作技法を知り、作品をつくることができたか。 【知識・理解】 日本伝統の生活文化に関する知識を身につけ、理解しているか。 以上の観点から、定期考査（年間5回）、授業への取り組みの姿勢、実習態度や課題等の提出状況、作品の技術などを総合的にみて評価する。
使用教材	プリント教材

考 査	取り組みの状況・自己評価	反省等
1学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
2学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C
3学期		学習の意欲・取り組み A・B・C 学習内容の理解 A・B・C

A；優れている。 B；普通。 C；努力する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
音楽	器楽演奏	2	3年	生活デザイン科	選択

学習目標	鍵盤楽器に関する知識や技術を習得させ、音楽性豊かな表現の能力を養う。
授業計画	－ 1学期 － ○鍵盤楽器を使つての音階と和音 ○選択曲の演奏 ○伴奏法－基礎編－ － 2学期 － ○リズム聴音 ○選択曲の演奏 ○伴奏法－応用編－ － 3学期 － ○旋律聴音 ○選択曲の演奏
学習方法と アドバイス	○授業を大切にして積極的に参加し、与えられた課題を計画的に取り組むこと。 ○楽曲等の練習に際しては、常に技術の向上を心掛け、自発的な表現の工夫など、創造的な活動を行う。 ○音楽表現の基礎となる知識や法則などを表現技術の分野において学習し、実際に活用できるように取り組むこと。 ○レポート等の課題は、丁寧に取り組み、期限を守って提出すること。
評価の観点と 方法	「器 楽」では以下の4つの観点から評価する。 【音楽への関心・意欲・態度】 音楽の諸活動において興味・関心を持ち意欲的に取り組む態度を身につけている。 【音楽表現の創意工夫】 音楽の諸活動において技術や知識を習得し、それらを臨機応変に思考、判断し表現できる。 【音楽表現の技能】 歌唱や器楽演奏において基本的な技術を身につけた上で、自己の感性を働かせたり、イメージしたりして自分なりに表現できる。また、鑑賞においては感じたことを言語等で表現できる。 【鑑賞の能力】 音楽を形づくっている要素を近くし、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。 以上の観点から、授業への取り組みの姿勢や態度、ノートや学習プリント等の提出状況と内容、器楽の実技テスト等を総合的に評価する。
使用教材	選択楽譜、授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等
1学期	
2学期	
3学期	

3年組番	氏名
------	----